日和佐（びわさ）

阿波南方廻船業（かいせんぎょう）の拠点 散策絵地図

四国霊場第23番札所
「医王山 薬王寺」

薬王寺の奥の院「玉厨子山」

「後山」の山頂にある「大岩」は
古くからの観光名所です。
町を一望できます。

至高知←R55→至徳島

「金毘羅神社」

「四国のみち」
ハイキングコース

「日和佐小学校」

「デイサービス竜宮」

「日和佐病院」

「美波町役場」
（日和佐御陣屋跡）

寺前

360°パノラマ
ビューポイント
「厄除橋」

本町

新町

「四国のみち」
東登り口

「国民の宿うみがめ荘」

「日和佐八幡神社」

「天理教教会」

「観音寺」

「浄光寺」

「弘法寺」

弘法寺の境内
にある古民家
「明治館」

豪商「谷兵」邸を改修
した茶房です。

「日和佐
郵便局」

「日和佐川」

藩政時代、中村、戎町は
商工の町として、大変賑っ
ていました。

奥河町

W.C

「うみがめ博物館
カレッタ」

中村町

「町民
グラウンド」

法印堂

江戸末期、法力で数々の奇跡を起
し評判をよんだ希代の行者
「栄寿法印」が祀られて
います。

八幡神社の秋祭りは、勇壮な8台
の「ちょろさ」と人々の熱気に
包まれます。

かつての銭湯を利用
した町中資料館
「初音湯」

前山（城山）の
日和佐城からの
ビューポイント

北向き
地蔵

戎町

「亀」の鬼瓦

「極楽寺跡」

国指定天然記念物
「大浜海岸と
アカウミガメ」

大正期のコンクリート建造物で
当時は「オランダ料理店」
でした。（現個人宅）

東町

「九州漁場
開拓の碑」

W.C

日和佐御陣屋跡へ
のびたこの道筋の下
には谷川が流れていて
暗渠（あんきょ）する以前は
小舟が入っていけました。

江戸後期から明治、「谷屋（たんにや）」は阿波廻船
業の雄として、日和佐の経済を支え
京阪神の文化もこの地に
伝えました。

この道筋も
後山からの
谷川でした。

「高木真蔵先生功績碑」
江戸末期、海部那賀郡代を長年
務め、「日和佐御陣屋」へ赴任し
民政や海防、学校教育に尽力した
「高木真蔵」は海部の人々から
賞賛され、「名郡代」として
知られています。

錣葺き（しころぶき）

出格子→

民家は桟瓦葺き切妻屋根と出格子（でごうし）づくりが
一般的で、涼しげな出格子をもつ家が
日和佐浦の名所で見られ
ます。

「徳島県
水産研究所」

「ハマボウフウ」
「ハマヒルガオなどの
海浜植物が見られます。

「うみがめマリンクルーズ」
乗り場

「日和佐漁協」

日和佐の港は
河川港で、整備される
以前は、土砂の堆積で
河口が極端に狭く
なっていました。

「網納屋」

戸袋↑

ミセ造りの特徴は、下ミセを開け、
上部の「溝」の上に雨戸をすべらせて
開け閉めする超機能型
です。

軒先の下部を、板で覆うよう
に付けられた「幕掛け（まくかけ）」

「小浜」

日和佐は、四国霊場第23番札所「薬王寺」や、アカウミガメの産卵地「大浜海岸」を有する風光明媚な港町です。歴史は古く奈良時代の平城宮跡からは「和射（わざ）」郷の名で木簡が出土しています。「日和佐」と呼ばれるようになったのは中世の頃で、応仁の乱（1467年）に東軍の武将として名を連ねたこの地の支配者も、「日和佐氏」を名乗っていました。この地域の地場産業を支えていたのは、日和佐川流域で産出されたボサ（薪）と呼ばれる燃料材の移出で、江戸時代中期より活躍した樵木問屋（こりき）「豊後屋」一統や、のちに阿波の豪商として名を馳せた「谷屋甚助」の登場により、日和佐浦は「阿波藩」の南方廻船業の拠点となる“商港”として発達します。
文化4年（1807年）には、鞆浦（海陽町）に設けていた「海部郡代所」がこの地に移転され、“日和佐御陣屋”として明治に至るまでの60年間、海部郡内における政治の中心地ともなりました。漁港としての繁栄をみるのは近代以降になってからで、西由岐の漁民による「九州博多沖の漁場開拓」や、明治末期からの漁船の機械化に伴う遠洋漁業の近代化によるものです。
港に面した町並みは、現在もなお漁村特有の風情を残し、人々の生活は“あわえ”（路地）によって繋がっています。

絵地図／小部 博正